

## 農業農村工学サマーセミナー2020 活動報告

### Report on Summer Seminar in 2020 supported by JSIDRE

○鈴木友志\*, 浅田洋平\*\*, 辰野宇大\*\*\*, 松田壮顕\*, 大山幸輝\*\*\*\*, 加藤 諭\*\*\*\*

○SUZUKI Yushi\*, ASADA Yohei\*\*, TATSUNO Takahiro\*\*\*,

MATSUDA Soken\*, OYAMA Koki\*\*\*\*, KATO Satoshi\*\*\*\*

1. はじめに 農業農村工学サマーセミナー（以下、サマーセミナー）とは、毎年開催の農業農村工学会大会講演会の終了後に、全国の大学、研究機関および民間企業から学生や若手研究者が集まり、農業農村工学に関わるテーマについてさまざまな角度から議論を行うとともにお互いの研究活動について情報交換を行う自主研修企画のことであり、1996 年以降ほぼ毎年継続的に開催されてきた（中桐，2015）。2020 年鹿児島県で開催される予定であった第 69 回農業農村工学会大会講演会はオンライン開催となったため、サマーセミナーの現地開催は叶わなくなったが、2020 年度は初のオンラインによる開催が実現し、当日は 21 名の参加者が集まった。本報では、2020 年度サマーセミナーの運営方法や企画内容および参加者からの感想を紹介する。

2. 2020 年度サマーセミナーの企画運営 例年行っている学会誌会告ページおよびホームページによる広報のほかに、一昨年から稼働が開始された「農業農村工学会 LINE 公式アカウント」を活用した広報を行った。参加登録の際に参加者にアンケートを依頼し、その回答によると、3 人の学生が 2020 年度のサマーセミナーの開催を農業農村工学会 LINE 公式アカウントで知ったと回答していたため、この方法は有効であったと考えられる。また、例年のサマーセミナーの設定されたテーマに対するディスカッションでは、グループごとに模造紙と付箋およびカラーペンを用意し、KJ 法などを行うことで参加者の意見をまとめていく形式であった。この方法は、ブレインストーミングによって参加者から出た意見を整理することができ、議論をスムーズに進めるのに非常に効果的であった。オンラインでもその方法を踏襲するために、昨年度のサマーセミナーではビデオチャットサービス「Zoom」のブレイクアウトセッション機能を用いて参加者を小グループに分け、Google 社のプレゼンテーションスライド作成ツール「Google Slides」を用いてディスカッションを行った。Google Slides にはリアルタイム共同編集機能が備わっており、1 枚のスライドに複数の参加者が同時に付箋を貼ったり、文字を書いたり線を引いたりすることが可能である。以上のツールを用いたことで、例年行っているディスカッションをオンラインでほぼ再現することに成功した。

サマーセミナーでは、例年、当時の社会情勢や大会講演会開催地の農業の特色などに関連したメインテーマおよびディスカッションテーマを設定している。2020 年度のメインテーマは、オンライン開催ではあるが、例年と同様に他大学・他機関の学生や研究者と真剣にディスカッションを行いながらも、和気藹々と語り合いたいという思いから、「農業農村工学のすゝめ～オンラインでつながる 2020～」とした。2020 年度の

---

\*京都大学大学院農学研究科 Graduate School of Agriculture, Kyoto University, \*\*東京大学大学院農学研究科 Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, \*\*\*福島大学環境放射能研究所 Institute of Environmental Radioactivity, \*\*\*\*鳥取大学大学院連合農学研究科 The United Graduate School of Agricultural Sciences, Tottori University  
キーワード：サマーセミナー、若手交流、オンライン

ディスカッションテーマは、①地域社会に根差した ICT の活用方法とは？②激動型社会における持続的農業を実現するために、とし参加者による選択制とした。

**3. サマーセミナー当日の活動** 2020 年度サマーセミナーは、8 月 28 日（金）の夜から 29 日（土）の夕方までとした。

ディスカッションの様子を **Fig. 1** に示す。「地域社会に根差した ICT の活用方法とは？」のテーマを選択したグループでは、高齢者や新規参加者が容易に使える ICT 技術、品質を向上化し高収入を得ること

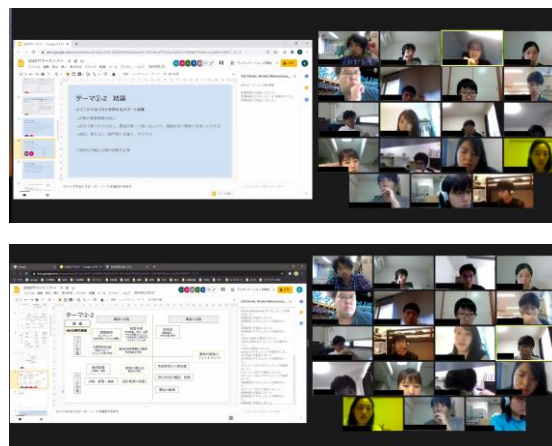
ができる ICT 技術が我が国の農業地域に望まれるという意見、農業における情報通信基盤を整備する際に、交通・生活サービスにおける情報通信基盤の整備を同時に行うことでコストの削減が可能ではないかという意見が挙げられた。「激動型社会における持続的農業を実現するために」のテーマを選択したグループでは、ソフト面およびハード面において事前に対策を行うことで、外的要因を受けた後のフィードバックのしやすさを向上させることが必要であるという意見や、農産物をきっかけに若者や異業種からの新しい人材を農業地域に呼び込み、それらの人材が情報を発信していくサイクルを続けていくことが重要であるという意見が挙げられた。

**4. 今後のサマーセミナーについて** サマーセミナー終了後に、参加者を対象にアンケート調査を行い、実行委員会を含めた参加者 19 名より回答を得た。オンラインでの開催でも参加者にサマーセミナーを楽しんでもらえるかというのは最大の懸念点であったが、約 90%の参加者から「楽しかった」との回答を得た。また、ディスカッション自体も約 75%の参加者が「楽しめた」と回答した。ディスカッションの時間に関しては、約 80%の参加者から「ちょうどいい」との回答を得た。また、実行委員会の対応はいかがでしたか？という質問には約 85%の参加者が「よかった」と回答し、オンライン開催にもかかわらずスムーズな進行ができていたという参加者からの意見もあった。来年以降のセミナーの開催形態に関しては、「対面型の研修会」を希望する意見が「オンラインでの開催」を上回った。オンライン開催を希望する理由として、「オンラインの方が金銭面、日程などの面で参加しやすい」という意見が挙げられた。しかし、「オンラインではディスカッションが難しい」、「自由にコミュニケーションがとりづらい」という回答も挙げられた。また、「他大学の同分野の学生と交流ができて、大変貴重な経験ができた」のように初対面の方との交流が有意義であったという感想や、「生産者や農業振興担当の方の立場に立って課題について考えることで視野が広がった」のように農業農村工学的な考えを深めることができたという感想が挙げられた。

**5. おわりに** 初のオンライン開催となった 2020 年度のサマーセミナーは滞りなく終了したが、特に参加者同士のディスカッション形式については改善の余地が見られた。

**謝辞** 毎年、当セミナーにご支援ご協力いただいている農業農村工学会、および学会所属の全国の大学の先生方に心よりお礼申し上げます。今年度以降もご協力のほど、よろしくお願いいたします。

**参考文献** 1) 中桐貴生 (2015) : 学生自主企画サマーセミナーの歴史, 平成 27 年度農業農村工学会大会講演会要旨集, pp.54-55



**Fig. 1** オンラインでのディスカッションの様子  
Pictures of online discussion